

令和5年6月30日

令和4年度 特別の教育課程の実施状況等について

栃木県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
足利市立山前小学校	足利市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

本市全小学校において、平成15年度より取り組んできた英会話学習の内容と外国語活動・外国語科の内容を関連づけた独自の年間指導計画を作成し、「話すこと」「聞くこと」に特化した指導を行うことで、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

必要となる教育課程の基準の特例については、「教育課程特例校編成の基本方針等について」を参照。

2. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・実施していない

(3) 自校における評価

令和4年度「学校評価」における「外国語及び外国語活動」の評価は、4段階で以下の通りである。

指導の方針	具体策	評価
外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。(知・技)	英語の音声、発音、リズムを習得させる。(教師と子ども、子ども同士での活動を通した学び合い)	3.33
身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力を養う。(思・判・表)	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、学習した表現を使って、自分の考えや気持ちなどを伝えさせる。	3.11
外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。(主体性)	子どもたちにとって興味や関心のある年中行事を積極的に取り上げるようにする。	3.33

教師と児童、児童同士での活動を通して、楽しく取り組む様子が見られていた。普段、交流の少ない友だち同士においても外国語での会話や活動を通して、自分の考えや思いを伝えたり、外国語の表現に慣れ親しんだりしながら、活動をする様子が見られた。ゲームを取り入れたり、年中行事の内容を取り入れたりすることで、主体的に取り組むことができたと思われる。

(4) 学校関係者による評価

<児童>

「英会話学習に関するアンケート」から (抽出 5年生)

1 英語の授業はたのしいですか。

楽しい	ふつう	つまらない
65. 2%	34. 8%	0%

2 先生や友だちの英語を聞いて内容がわかりますか。

わかる	少しわかる	あまりわからない
52. 2%	43. 5%	4. 3%

3 英語チャレンジ Day で ALT や EAA の先生と楽しく過ごせましたか。

楽しい	ふつう	つまらない
65. 2%	34. 8%	0%

4 英会話学習で、どんな活動をしてみたいですか。

※主なもの

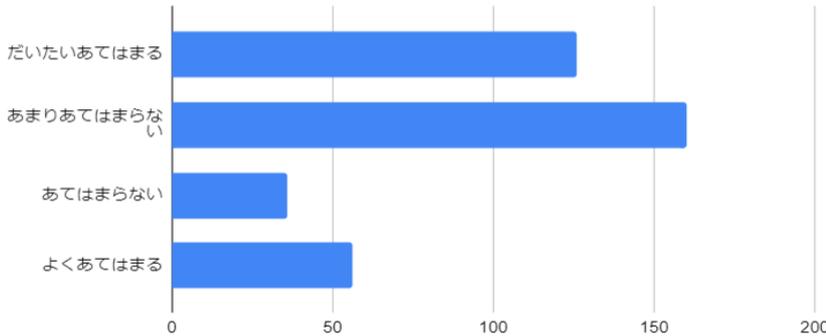
- ・ ALT、EAA の先生方や友だちに英語でインタビューなどをして交流を深めたい。
- ・ 外国に行って英語で話してみたい。
- ・ 英会話をしながらの遊びやゲーム
- ・ 英語の本を作ってみたい。
- ・ 外国の遊び
- ・ 英語チャレンジデーをま

たやりたい。他

児童へのアンケート結果からの傾向をみると、英会話を楽しみ、また、慣れ親しむことができていると思われる。また、外国語や異文化への関心も高まってきていると思われる。

〈保護者〉 「保護者アンケートから」

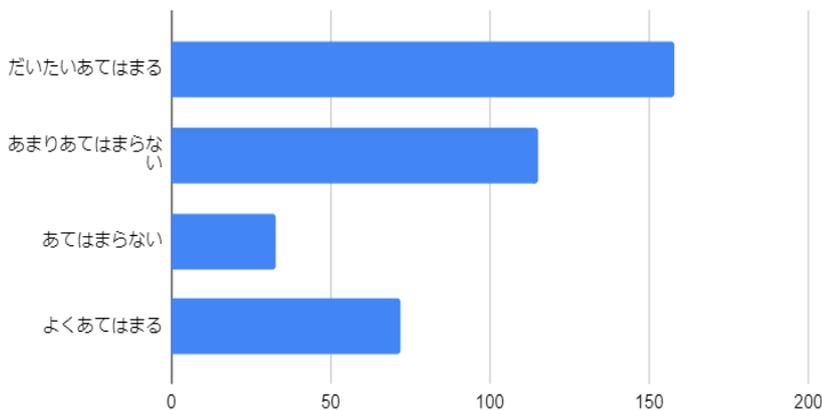
① 英会話学習により、お子さんの、英語で話す力が育ってきた。



【傾向】

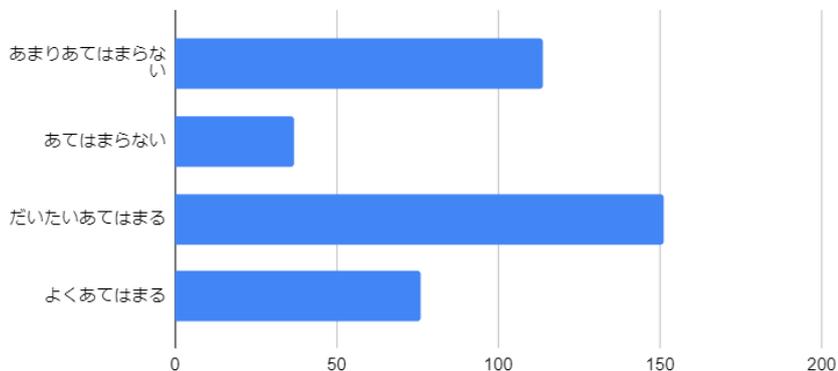
「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」までを考えると、およそ半数の保護者の方々が、“英語で話す力”が育ってきていると回答されている。

② 英会話学習により、お子さんは英語に慣れたり、親しんだりすることができるようになった。



【傾向】“英語に慣れ、親しむ”ことは、足利市が英会話学習を始めた当初からの指標である。「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」を合わせると、3つの設問の中では一番高い評価である。しかし、どの学年にも「あまりあてはまらない」「あてはまらない」との評価もあるので、今後の課題としてとらえ、授業改善につなげたい。

③ 英会話学習により、お子さんは外国の言葉や文化に関心をもつようになった。



【傾向】 全学年で「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」を合わせると約60%である。言葉や文化を理解することで、人権感覚も磨かれていくと思われる。今後も力を入れたい活動である。また、他教科との関連を図り、道徳科や社会科の時間においても、機会をとらえて“国際理解”の大切さを学ばせたいと考えている。

3. 実施の効果及び課題

A L TやE A Aの先生方との交流を通して、外国語や外国の文化についての学習が効果的に実施できたと思われる。子どもたちは、A L TやE A Aの先生方の効果的なパフォーマンスや、体験的な活動を取り入れた授業展開の工夫により、どの学年でも楽しく活動することができた。そのため、英語への「慣れ・親しみ」がより深まっていると考える。多くの児童に「英語で話したい」「学んだ英語を使いたい」という思いも見られ、第1学年からの英会話学習の実施の効果が見られている。

英会話学習で得られる交流活動は、多くの外国籍児童のいる本校にとっては大変効果的な取組でもある。言葉や文化を理解することで、人権感覚も磨かれていくので、今後も大切にしていきたい取組である。

保護者の意識としても、半数以上の方々が、「英語で話す力」が育ってきていると感じており、また、英語に「慣れ・親しむ」こともできていると感じているようである。

しかし、英会話学習を通しての「英語への慣れ・親しみ」は、「あまりあてはまらない」と感じられている方々もいる。家庭への啓発という点において、学んだことを家庭学習に生かすなどして、今後、取組の工夫をしていきたいと思う。

4. 課題の改善のための取組の方向性

子どもたちへの指導においては、引き続き、興味・関心をもちながら主体的に取り組ませていきたい。また、自分の考えや思いを、外国語を通して表現できる（話す力）、言語や文化についての理解を深め、より一層外国語に慣れ・親しむことができる（コミュニケーション力）を育てていきたい。そのためには、これまでのモデル校等の実践力を参考に、担任とA L T・E A Aの先生方との連携を図り、授業展開の工夫やタブレット端末を活用した授業等を職員で共有し、授業改善を図っていきたい。